

E班プロジェクト演習B企画案

赤外線センサーでゴミを量を判断する システムプロジェクト

目次

- 1.メンバー構成
2. 背景（システムを考えた理由）
3. 目的・目標
4. 遷移図
5. 開発環境
6. クライアントとエンドユーザー
7. クライアントの業務内容

メンバー構成

- 中田空希 プロジェクトリーダー
- 石川蓮 デザイン
- 大瀬良咲也 デザイン
- 吉田夏帆 デザイン
- 前澤志門 システム開発
- 宮澤颯来 システム開発

背景（システムを考えた理由）

1

このプロジェクトはコンビニや人通りが多い場所のゴミ箱のゴミが流れかえるのを防ぐ

2

本システムは実際に働いている人からゴミが溢れ返っていて困っているという話を聞きそれをサポートすることを目的に開発を行なった。

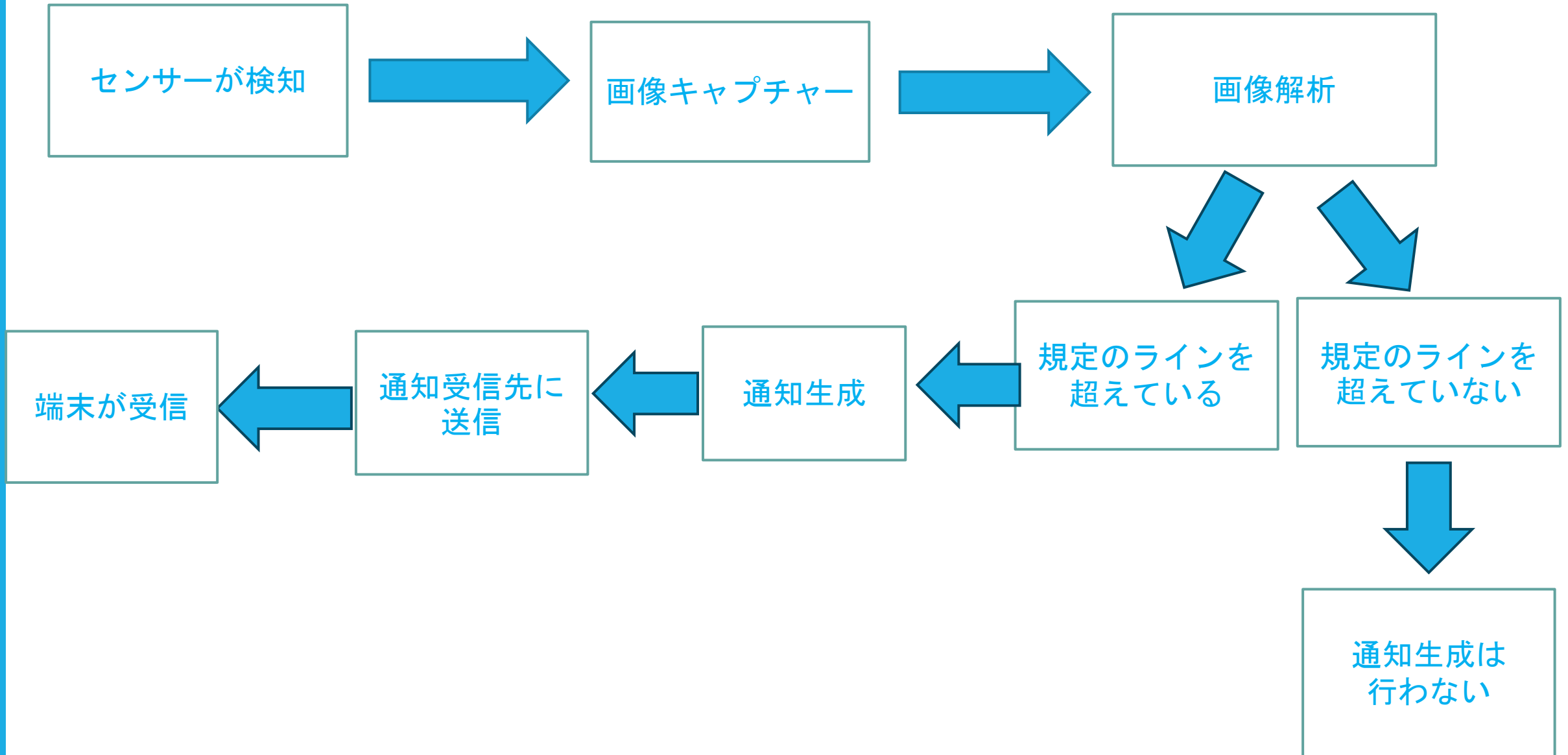
目的

- ・ ゴミ箱のゴミが溢れかえるのを防ぐ
- ・ 清掃員のゴミ回収の回数を減らす

目標

係りの人や店の人が一定の周期でゴミの中身を確認せずに済むようにする。

遷移図



開発環境

- Python 

- コマンドプロンプト

```
Python
Microsoft Windows [Version 10.0.18362.1120]
(c) 2019 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\shiro\Desktop>tree C:\Users\shiro\Desktop\sample /f
フォルダーのリスト:
.
..
sub_01
  01.txt
  02.txt
  03.txt
  sub_02
    01-02.txt
sub_02
  04.txt
  05.txt
  06.txt
sub_03
  07.txt
  08.txt
  09.txt
```


画像処理ゴミ箱

クライアント

コンビニの店員や
ゴミ回収係りの方々

エンドユーザー

清掃業務の方、駅のゴミ箱を
利用する人

クライアントの業務内容

- レジ対応・レジ打ち
- 品出し・商品補充、納品・検品
- 清掃